

# 平成 31 年度 事業報告書

平成 31 年 4 月 1 から令和 2 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人親子の未来を支える会

## 1 事業の成果

学校における高度な医療的ケアを担う看護師ネットワーク構築事業として、医療的ケア児の就学支援を本格的に開始した。複数の自治体と協働し、次年度へ繋げる事業へと成長させた。

「胎児ホットライン」事業の一つとして、妊娠葛藤を持つ家族が読むブックレットを作成し、全国の産科クリニックへの無料配布を行なった。積極的にメディアで情報発信を行い、個人や医療機関からの問い合わせも増えた。すべての人が安心して豊かな社会生活ができるような社会作りを目標に、より多くの人々に当法人の活動を認知される 1 年となった。

## 2 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
(1) 胎児診断・障がいに関する情報提供・情報収集事業	ホームページを刷新し、よりわかりやすい情報発信を行った。当法人で繋がった家族とともにメディアを通じて情報発信を行なった。ブックレットを無料配布し、そのフィードバックを回収して全国の妊娠葛藤の情報収集を行なった。	通年	新聞・Webメディア・国内外の医療機関・教育機関など	15 名	一般市民、障がい者、障がい者家族、医療者、胎児医療に関わる医師、看護師等 3000 人/月
(2) 障がいに関するカウンセリング事業	クラウドファンディングで集めた資金を元に、妊娠葛藤を持つカップルが読むブックレットを作成し、配布した。オンラインピアサポートの認知度を上げ、断続的に相談にのった。	通年	インターネット上、電話相談、また適宜状況に応じて出張	500 名	一般市民、妊婦、これから生まれる子供たち、胎児医療に関わる医師、看護師等 50 人/月
(3) 胎児医療・障がい者医療に関するサポート事業	医療的ケア児の支援・勉強会の開催、22q11.2 欠失症候群患者家族の交流会・勉強会開催などを行った。日本コーエン症候群協会の活動を支援した。グリーンケアに関わる医療者の交流会を開催した。	通年	学校、インターネット上、電話相談、また適宜状況に応じて出張	30 名	一般市民、妊婦、これから生まれる子供たち、胎児医療に関わる医師、看護師等 10 人/月